



<b>東京部会(第26回)</b>	
日時:	2010年2月2日(火)19:00-21:20
場所:	日本大学経済学部3号館(図書館)4階会議室
参加者:	篠原(同志社大)、加藤(日大)、小巻(日大)、中川(日大)、猪瀬(弘前大)、大倉(文科省国立教育政策研)、新井(都立西高)、高橋(桜修館中等教育)、杉田(千葉西高)、鈴木(日本経済教育センター)、中沖(清水書院)、宮尾(筑波大) [順不同]
<b>【内容要旨】</b>	
<p>1. 最初に篠原先生より以下の報告があった。</p> <p>1A) 教材の作成について、三枝先生を中心に「企業モデル」の教材がほぼ出来上がり、中学生を対象に実験をしてみたいという意向なので、高橋先生の協力を得て進める。なお、学研の図書館用教材は完成。</p> <p>1B) 年次大会を3月20日(土)午後開催し、2つのシンポジウムを行う。第1は「大学入試問題(政経)の評価」に関するシンポで、新井先生の司会および3人のパネリストで行う。第2は、「他団体の経済教育の取り組み」で、いくつかの団体候補へのコンタクトを開始。詳細は次回3月11日の東京部会で検討。</p> <p>1C) 東証との夏休み教員研修は、8月2日の北海道を皮切りに、大阪での8月18~19日まで、名古屋(8/12-13)、東京(8/9-11、8/16-17)でも開催予定。その間の8月5日と6日には、高橋先生の全国公民科・社会科研究会の全国大会(於日大経済学部7号館)を共催という形で参加。</p> <p>2. 経済教育ネットワークのウェブサイトの改修について、篠原先生より改訂版(案)のプリントアウトが配布され、詳細が検討された。</p> <p>長期にアップしておく告知やニュースは別の囲みに入れること、入会の方法を再検討して、本会員とウェブ会員の区別をなくす(個人情報サーバーに置かない)こと、実質的な連絡先を加藤研究室と篠原研究室にすること、資料集のページに書くメンバーの活動、資料、提案などをアップすること等が議論された。最終版をここ1~2週間のうちに順次アップし始める予定。</p> <p>3. 入試プロジェクトの経過報告が、新井先生よりなされた。</p> <p>総括としては、政経が受験ではマイナーな地位を占めているが、センター試験では現代社会を含めると23万人近い生徒が受験しているので影響力は大きい。受験では国立大学や一部の主要大学で出題されていないが、中堅大学ではかなり重要な科目となっている。</p> <p>政経の問題の特質としては、圧倒的に「知識問題」が多く、良問が少ない。悪問が出る理由は多岐にわたる(ただし、何が良問・悪問かは、見方や立場によって異なる点が、東京部会参加者の間で議論された)。</p> <p>提言としては、国公立大学で入試に採用するよう働きかけること、出題した大学は、正解と採点基準を公表して、内容の向上に努めるべきこと。また知識問題だけでなく、思考・判断・資料活用型の問題を増やすべきこと。さらに、問題のリード文を生かした設問の工夫をすべきこと等が指摘された(ただし、実際に出題に携わった参加者からは、提言の実現の難しさが指摘された)。</p> <p>いずれにしても、これらの諸点は、今後シンポジウムなどで取り上げて議論を深めることとなった。</p> <p>なお、前回予定されていた12月16日の東京部会は都合により流会となった。</p> <p>(文責:宮尾尊弘)</p>	
<p>次回開催予定:3月11日(木)19:00~21:00、日大経済学部3号館4階会議室。</p> <p>主な議題としては、3月20日の年次大会でのシンポジウムの詳細を検討する。</p>	